

アートサポートふくおか★2017

芸術文化のまちづくりゼミ

高齢者とアート～オーケストラにできること～



芸術文化のまちづくりゼミは
〈芸術文化で人とまちをつなぐこと〉
に関心がある人を対象に行う
能動的な講座です。

今回は日本センチュリー交響楽団で
コミュニティプログラムを担当する
柿塚拓真さんをお迎えし、オーケストラが
行う地域の高齢者との活動について
じっくりうかがいます。

日時：2017年10月26日(木) 19:30～21:40 (受付開始 19:15)

場所：アクロス福岡 605 会議室 (福岡市中央区天神 1-1-1)

定員：30名 (先着順)

〈主催〉 **アートサポートふくおか** <http://www.as-fuk.com> office@as-fuk.com

〈共催〉 ワレワレワークス

〈後援〉 日本アートマネジメント学会九州部会

- アートサポートふくおかでは、認知症の方を含む高齢者の芸術体験の機会拡大に取り組んでいます。高齢になっても、心身の機能が若いときとは異なる状況になっても、生きているその瞬間を輝かせる日々を大切にしたい…そのためにアートにできることがきっとあるはずです。私たちは高齢者との活動を進めると同時に、このような場を広げていくための環境整備にも取り組んでいます。
- そんななか出会ったのが大阪のオーケストラ「日本センチュリー交響楽団」の活動。このオーケストラは2016年、ブリティッシュ・カウンシルと連携して、高齢者や認知症の方々を対象にしたプログラムで定評のある英国の室内管弦楽団マンチェスター・カメラータの音楽家を日本に招聘。楽団員が高齢者を対象にプログラムを行う際に必要とされる専門知識やスキルを身に着けるための3日間のスキル・トレーニングを実施しました。そしてトレーニングを受けた音楽家がマンチェスター・カメラータの音楽家とともに豊中市内の高齢者施設で2日間の音楽ワークショップを展開し、臨床心理学の専門家による観察・成果検証も行っています。この活動は今年も継続中。
- オーケストラがなぜ、地域の高齢者との活動に関わるのか、その成果はどのようなものだったのか、今後はどのように展開されるのか…もろもろの疑問をこの事業の担当者・柿塚さんにつけてみたいと思います。

ゲスト：柿塚拓真さん

(公益財団法人日本センチュリー交響楽団コミュニティプログラム担当

/豊中市立文化芸術センター事業プロデューサー)

福岡第一高等学校音楽科、相愛大学音楽学部（チューバ専攻）卒業。

2008年より大阪センチュリー交響楽団（当時）事務局で勤務。2013年1月にオーケストラ・ホール関係者向け英国派遣プログラム（主催：ブリティッシュ・カウンシル他）に参加し、文化芸術機関による地域との連携、教育プログラムの在り方について学ぶ。

2016年4月より日本センチュリー交響楽団が豊中市市民ホールの指定管理者となり文化芸術センターに所属。



(日本センチュリー交響楽団公式サイトより)

2060年には国民の2.5人に1人が65歳以上になると予想される超高齢社会を迎える日本で、文化芸術の高齢社会に果たす役割について期待が高まっています。そこで、楽団では高齢者や認知症の人のためのプログラムで定評のある英国の室内管弦楽団マンチェスター・カメラータと連携しながら大阪にて高齢者を対象にした創造的な参加型音楽プログラムを昨年度より展開しています。

≪受講料≫ 一般 1,000円 学生・アートサポートふくおか協力会員 500円

≪申込み方法≫ メールで下記をご連絡ください。先着順。

① お名前 ② (あれば) ご所属 ③ (昼間、連絡がとれる) 電話番号

④ メールアドレス (PCから送信します) ⑤ 参加の動機・現在、関心を持っていること

≪申込先≫ **アートサポートふくおか** メール office@as-fuk.com

*この講座はワレワレワークス主催「PD WEEK 医療と福祉におけるダンス」(10/23<月>～10/29<日>)の関連企画です。同じ週にパーキンソン病を持つ方々とプロのダンサーの創作によるダンス・ワークショップ&作品発表などが「ぽんプラザホール」(福岡市博多区祇園8-3)で行われます。